





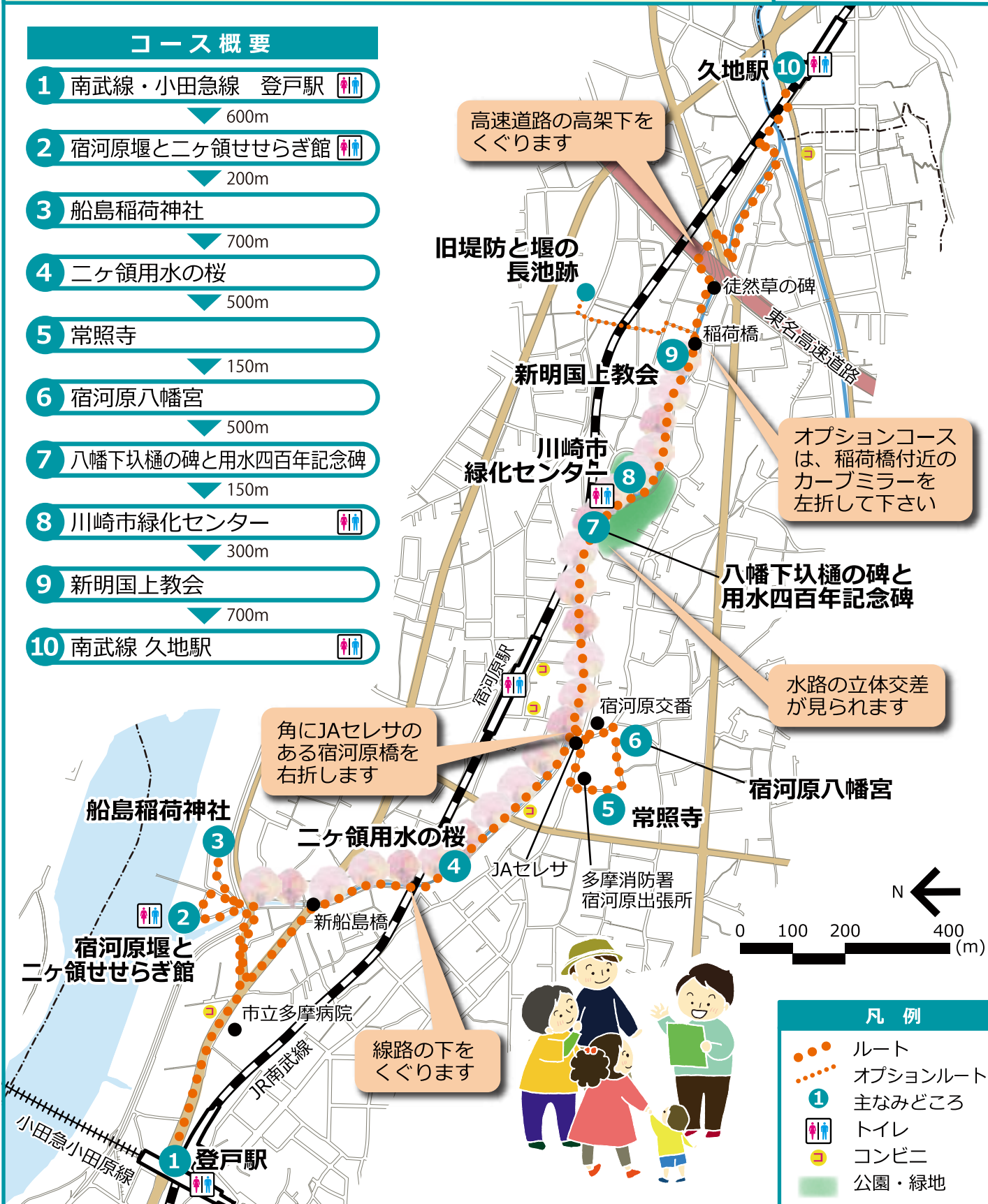
二ヶ領用水(宿河原堰)を歩く

宿河原堰から続く二ヶ領用水沿いに桜並木が続き、沿線には宿河原の養蚕の歴史を伝える常照寺、市の都市緑化植物園である緑化センターなどがあります。春の桜、夏の緑陰、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季を通じて楽しめるコースです。

距離：3.7km
時間：3時間
難易度：ふつう

コース概要

- 1 南武線・小田急線 登戸駅 
- 2 宿河原堰と二ヶ領せせらぎ館 
- 3 船島稲荷神社
- 4 二ヶ領用水の桜
- 5 常照寺
- 6 宿河原八幡宮
- 7 八幡下込樋の碑と用水四百年記念碑
- 8 川崎市緑化センター 
- 9 新明国上教会
- 10 南武線 久地駅 



高速道路の高架下をくぐります

旧堤防と堰の長池跡

オプションコースは、稲荷橋付近のカーブミラーを左折して下さい







八幡下込樋の碑と用水四百年記念碑

水路の立体交差が見られます

角にJAセレサのある宿河原橋を右折します

線路の下をくぐります



- ### 凡例
-  ルート
 -  オプションルート
 -  ① 主なみどころ
 -  トイレ
 -  コンビニ
 -  公園・緑地

宿河原堰と二ヶ領せせらぎ館

宿河原堰は二ヶ領用水宿河原線へ安定的に多摩川の水を供給するためにつくられました。昭和 49 年（1974 年）の台風時に粕江側の堤防が決壊して大きな被害が出たために、平成 11 年（1999 年）可動堰として完成。この堤の改築事業を機に地域と連携した川づくりの拠点として「二ヶ領せせらぎ館」が設けられ、市民活動の支援や情報発信を市民主体の運営で行っています。



船島稲荷神社

この付近を船島といいます。この社は古くより多摩川の水難と共にあり、祠に掛けてある沓（わらぞうり）を家の軒先に掛けておくと病に罹らないと言われ、そのお礼として新しい沓をお返ししたとのことです。

また、昔鷹狩りにきた殿様の馬が病で倒れ、この地の左源太（伯楽・馬医）が直した事で褒美を授かったという伝承もあります。



二ヶ領用水

二ヶ領用水とは多摩川から中野島の上河原堰と宿河原の宿河原堰から取水している農業灌漑用水で、徳川家康が代官小泉次大夫に命じて 14 年の歳月をかけて慶長 16 年（1611 年）に完成しました。江戸時代の稲毛領と川崎領に亘る総延長 32km で神奈川県最古の人工用水であり、平成 24 年度（2012 年）土木学会「選奨土木遺産」に認定されています。

桜の名所としても知られ、毎年春には桜まつりが開かれ、多くの花見客で賑わいます。



常照寺

常照寺は賢智和尚を開山とし明応 6 年（1497 年）の創立以来、四度の火災に遭い、今の本堂は、明和元年（1764 年）に再建されました。川崎市の重要歴史記念物「松寿弁財天図」が所蔵されています。

境内の巨大な宝篋印塔は、土地の名主関山五郎衛門が寄進したもので、「養蚕実験録」を著述し養蚕業を実践した篤農家です。



宿河原八幡宮

風土紀稿によると「村の中央字北村の内観音堂境内にあり、もと社地 5 畝 6 歩多摩川北岸に在りしが、流出した観音堂を常照寺に移し、その後社を建て村の鎮守となりました。祭神は応神天皇、例祭は 10 月です。



はちまんしたいりひ

八幡下堰樋の碑と用水四百年記念碑

この堰樋は、洪水の時に、溢れた余分の水を堰の長池に流し、多摩川に戻すためのものでした。宝暦の絵図では、多摩川は大きく湾曲していてこの近くに、宿河原の取り入れ口があったと考えられています。なお、平成 23 年（2011 年）、この場所に、二ヶ領用水竣工四百年の記念碑が建てられました。



川崎市緑化センター

昭和 11 年（1936 年）神奈川県農業試験場として設置。昭和 24 年（1949 年）に川崎市に移管され、園芸技術普及場として発足しました。昭和 45 年（1970 年）から緑化センターとして市民に開放されています。市民向けに園芸講習会や園芸相談が行われています。

■開園時間 9：00～16：30（11月～2月16：00まで）

■休園日 月曜日、年末年始

■料金 無料



新明国上教会

現在の地に関山盛衆氏が「新明国上心様」から啓示を受け、難行苦行の勤めの結果、大正元年（1912 年）11 月に設立した新しい宗教団体です。

昭和 9 年（1934 年）南武鉄道が「宿河原不動駅」を設置し、多くの信者が訪れるようになりました。昭和 59 年（1984 年）に新本堂が完成し、屋上の三重の塔は天の心、地の心、阿合の心を現していると言われています。



《オプション》 旧堤防と堰の長池

宿河原 5 丁目から東名高速道路までの旧土手が当時の多摩川の堤防です。このような断続した堤防を「霞堤」といいます。多摩川の氾濫で川筋が蛇行し、流路跡が広大な沼池になりました。この堤は、北原白秋作詞の「多摩川音頭」にも歌われています。